

平成 1 7 年度

研 究 紀 要

第 1 9 号

川崎市総合教育センター

はじめに

今日、社会の変化は激しいものがあり、価値観の多様化、国際化、情報化、少子高齢化などが急速に進展し、様々な教育課題が山積しています。このような状況において、子どもたち一人一人に「生きる力」を培っていくことが、これからの教育には一層求められています。

川崎市総合教育センターは、平成16年度から、研究の総括主題を「豊かな学びをはぐくむ川崎の教育の創造」、副題を「共生を軸にして」といたしました。また、研究のキーワードの「自ら学ぶ」「共に学ぶ」「学び続ける」については、学びの基本的な姿として前研究総括主題より踏襲しています。これらの主題等のもとに、一層川崎らしさがにじみ出る研究を心がけてまいりました。

今年度は、6つの研究分野を設定しましたが、各研究会議では、総括主題・キーワードを踏まえてそれぞれの研究主題を設定するとともに、調査・研究を進めるにあたっては次の3点を基本的な視点としました。一つ目は、学校教育、幼児教育、社会教育等広く教育一般にかかわる基礎的課題に関する研究、二つ目は、学習指導、児童生徒指導、社会教育などにおける実践的課題に関する研究、三つ目は社会の変化や時代の進展などに伴って要請される先導的課題に関する研究です。

ここに、平成17年度に終結した各研究会議の研究内容を、研究紀要第19号としてまとめることができました。この研究紀要が、これからの皆様の授業や教育研究の充実・改善に役立つことができれば幸いです。忌憚のないご指導並びにご批評を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、それぞれの研究に対しまして、当総合教育センター専門員はじめ多くの方々からご指導やご助言をいただきました。改めて深く感謝いたしますとともに、それぞれの研究にお力添えをいただきました関係の方々に厚くお礼申し上げます。

2006年5月

川崎市総合教育センター
所長 垣東 節夫

目 次

研究の基本構想及び取組	1
教育研究所連盟における発表	4
川崎の教育の在り方を探る	センター指導主事研究会議 5
教員のICT活用指導力の向上をめざして	情報・視聴覚センター指導主事研究会議 17
小学校と中学校との連携を中心とした不登校対策の研究	教育相談センター指導主事研究会議 21
4歳～就学前の親子グループ活動プログラムに関する検討	幼児教育センター指導主事研究会議 27
本と出会い、想像する力をはぐくむ	国語科研究会議 33
子どもの意欲が連続する社会科学習の在り方	社会科研究会議 49
小・中9年間で考える音楽科教育	音楽科研究会議 65
4技能をバランスよく行う授業Designの研究	英語科研究会議 81
「いのち」を多面的・実感的にとらえる道徳教育をめざして	道徳研究会議 97
自発的、自治的態度をはぐくむ学級活動	特別活動研究会議 113
自ら学びを実感できる総合的な学習の時間をめざして	「総合的な学習の時間」研究会議 129

「読解力」を高めるための教科横断的な学習に関する研究	高校教育研究会議	145
情報機器による情報活用の実践力の育成をめざした指導計画の作成	情報教育研究会議	161
通常の学級における特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する支援の在り方	特別支援教育研究会議	177
中学校の学年会を活用したチーム援助をめざして	学校教育相談研究会議	193
高等学校における情報モラルに関する指導の研究	専門研修員による1年研究	209
学校に生かせるカウンセリング	カウンセラー研修	215
小学校における英語活動の可能性	小学校における英語活動研究会議	221
多文化共生の社会をめざした国際理解教育の在り方	国際理解教育研究会議	225
多面的なアプローチによる健康教育の実践研究	健康教育研究会議	231
児童生徒の情報活用能力を高める映像教材の開発研究	映像制作研究会議	237
幼稚園生活から小学校生活への接続に関する研究	幼児教育研究会議	241